

## 礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

## セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

## 家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

# デーヴォ ガイド



**2023.9.25-10.1**

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

## L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。  
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。



12:1 こういうわけで、このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから、私たちも、一切の重荷とまとわりつく罪を捨てて、自分の前に置かれている競走を、忍耐をもって走り続けようではありませんか。

12:2 信仰の創始者であり完成者であるイエスから、目を離さないでいなさい。この方は、ご自分の前に置かれた喜びのために、辱めをもものともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されたのです。

12:3 あなたがたは、罪人たちの、ご自分に対するこのような反抗を耐え忍ばれた方のことを考えなさい。あなたがたの心が元気を失い、疲れ果ててしまわないようにするためです。

12:4 あなたがたは、罪と戦って、まだ血を流すまで抵抗したことはありません。

12:5 そして、あなたがたに向かって子どもたちに對するように語られた、この励ましのことばを忘れていません。「わが子よ、主の訓練を軽んじてはならない。主に叱られて気落ちしてはならない。

12:6 主はその愛する者を訓練し、受け入れるすべての子に、むちを加えられるのだから。」

12:7 訓練として耐え忍びなさい。神はあなたがたを子として扱っておられるのです。父が訓練しない子がいるのでしょうか。

12:8 もしあなたがたが、すべての子が受けている訓練を受けていないとしたら、私生児であって、本当の子ではありません。

12:9 さらに、私たちには肉の父がいて、私たちが訓練しましたが、私たちはその父たちを

尊敬していました。それなら、なおのこと、私たちは霊の父に服従して生きるべきではないでしょうか。

12:10 肉の父はわずかの間、自分が良いと思うことにしたがって私たちを訓練しましたが、霊の父は私たちの益のために、私たちをご自分の聖さにあずからせようとして訓練されるのです。

12:11 すべての訓練は、そのときは喜ばしいものではなく、かえって苦しく思われるものですが、後になると、これによって鍛えられた人々に、義という平安の実を結ばせます。

すでに天に召されたクリスチャンたちは、迫害など試練に合っても信仰を守り通すならば、すばらしい栄誉があるということの証人であり、信仰を守ることによって次世代に救いが広がるということの証人でもあります。忍耐は決して無駄ではありません。

その忍耐は「イエスから目を離さない」こと、イエスご自身の忍耐を考えることから始まります。そしてつらいことも訓練であって、神の愛であることを忘れないことです。この「叱られ」とはさばきではありません。訓練です。より強い者、しっかりした者、正しい者、美しい者となって、幸いな人生を送るために必要なことなのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ➤ 26日 火曜

### へブル



12:12 ですから、弱った手と衰えた膝を  
まっすぐにしなさい。

12:13 また、あなたがたは自分の足のために、  
まっすぐな道を作りなさい。足の不自由な人  
が踏み外すことなく、むしろ癒やされるため  
です。

12:14 すべての人との平和を追い求め、また、  
聖さを追い求めなさい。聖さがなければ、だ  
れも主を見ることができません。

12:15 だれも神の恵みから落ちないように、  
また、苦い根が生え出て悩ませたり、これに  
よって多くの人が汚されたりしないように、  
気をつけなさい。

12:16 また、だれも、一杯の食物と引き替え  
に自分の長子の権利を売ったエサウのように、  
淫らな者、俗悪な者にならないようにしなさい。

12:17 あなたがたが知っているとおりに、彼は  
後になって祝福を受け継ぎたいと思ったので  
すが、退けられました。涙を流して求めても、  
彼には悔い改めの機会が残っていませんでした。

旧約の祭儀がひながたであること、永遠の大祭司  
であるイエス様こそが真の贖い主であること、そして  
それゆえにイエス様こそがとりなし手であるとい  
うことが論じられてきました。

前の箇所では、そのイエス様によって試練をも愛  
の訓練として忍耐できるのだと、励ましを受けまし  
た。そしてここでは救われた者の生き方について書  
かれています。

誰もが手や足が弱るような疲れを感じるでしょう  
が、恐れから伸ばせないでいたものを思い切って伸  
ばしてみましょう。のびのびとやってみてはどう

しょうか。また平和を追い求めることもしてみま  
しょう。自分の利得やプライドよりも平和を優先  
してみましよう。

「恵みから落ちる者がないように」、「苦い根  
が芽を出」すことのないように、「俗悪な者が」  
がないようにと訓戒しています。自分自身の罪を  
認めるなら、それは裁きの証拠となるのではなく、  
主の恵と回復の始まりなのですから、積極的に罪  
を告白しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の  
約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願  
いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのだ  
の部分の主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ➤ 27日 水曜

### へブル

12:18 あなたがたが近づいているのは、手でさわられるもの、燃える火、黒雲、暗闇、嵐、  
12:19 ラッパの響き、ことばのとどろきではありません。そのことばのとどろきを聞いた者たちは、それ以上一言も自分たちに語らないでくださいと懇願しました。

12:20 彼らは、「たとえ獣でも、山に触れるものは石で打ち殺されなければならない」という命令に耐えることができませんでした。  
12:21 また、その光景があまりに恐ろしかったので、モーセは「私は怖くて震える」と言いました。

12:22 しかし、あなたがたが近づいているのは、シオンの山、生ける神の都である天上のエルサレム、無数の御使いたちの喜びの集い、  
12:23 天に登録されている長子たちの教会、すべての人のさばき主である神、完全な者とされた義人たちの霊、

12:24 さらに、新しい契約の仲介者イエス、それに、アベルの血よりもすぐれたことを語る、注ぎかけられたイエスの血です。

12:25 あなたがたは、語っておられる方を拒まないように気をつけなさい。地上において、警告を与える方を拒んだ彼らが処罰を免れなかったとすれば、まして、天から警告を与える方に私たちが背を向けるなら、なおのこと処罰を免れられません。

12:26 あのとときは御声が地を揺り動かしましたが、今は、こう約束しておられます。「もう一度、わたしは、地だけではなく天も揺り動かす。」

12:27 この「もう一度」ということばは、揺り動かされないものが残るために、揺り動か



されるもの、すなわち造られたものが取り除かれることを示しています。

12:28 このように揺り動かされない御国を受けるのですから、私たちは感謝しようではありませんか。感謝しつつ、敬虔と恐れをもって、神に喜ばれる礼拝をささげようではありませんか。

12:29 私たちの神は焼き尽くす火なのです。

ここでは忘れてはならないこと、すなわち終わりの日とさばきについて言及されています。それは「たとえ獣でも、山に触れるものは石で打ち殺されなければならない」というほどの、神の厳粛さであり恐ろしいばかりの栄光の現れです。

しかしそれだけでなく、イエス様の栄光はそれら旧約の出来事よりもはるかに大なるものであることが述べられています。ですから「語っておられる方」すなわち聖霊を拒んではならないのです。聖霊に逆らうようであれば、私たちは神に従う可能性はなくなってしまいます。

また、そのようなことのない正しい生き方は、さばきへの恐ろしさから逃れたいという動機によるものではありません。「生ける神の都、天にあるエルサレム、無数の御使いたちの大祝会に近づいている」という希望によってもたらせれるものです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ➤ 28日 木曜

### へブル



- 13:1 兄弟愛をいつも持っていなさい。
- 13:2 旅人をもてなすことを忘れてはいけません。そうすることで、ある人たちは、知らずに御使いたちをもてなしました。
- 13:3 牢につながれている人々を、自分も牢にいる気持ちで思いやりなさい。また、自分も肉体を持っているのですから、虐げられている人々を思いやりなさい。
- 13:4 結婚がすべての人の間で尊ばれ、寝床が汚されることのないようにしなさい。神は、淫行を行う者と姦淫を行う者をさばかれるからです。
- 13:5 金銭を愛する生活をせずに、今持っているもので満足しなさい。主ご自身が「わたしは決してあなたを見放さず、あなたを見捨てない」と言われたからです。
- 13:6 ですから、私たちは確信をもって言います。「主は私の助け手。私は恐れない。人が私に何ができるだろうか。」
- 13:7 神のことばをあなたがたに話した指導者たちのことを、覚えていなさい。彼らの生き方から生まれたものをよく見て、その信仰に倣いなさい。
- 13:8 イエス・キリストは、昨日も今日も、とこしえに変わることがありません。
- 13:9 様々な異なった教えによって迷わされてはいけません。食物の規定によらず、恵みによって心を強くするのは良いことです。食物の規定にしたがって歩んでいる者たちは、益を得ませんでした。

続けて、いかに生きるべきかが述べられています。「旅人」は観光のためというよりも必要があって生活地から離れて移動しなければいけない人というこ

とでしょう。心細かったり乏しかったりするものです。「牢」とは一義的には迫害でしょうが、誰であっても「苦しめられている人々」を思いやることです。「不品行」や「姦淫」にはさばきが伴うことを忘れてはなりません。「金銭を愛する」ような価値観だと、人は生き方がだんだんずれてしまいます。むしろ「あなたを見捨てない」と言ってくれる、全能の主に信頼する方がむしろ安心です。

主に信頼して信仰を守り通した生き方は、指導者たちのように迫害にも屈しない人々によって証されています。その結末はきよく、力に満ち、多くの人々の励ましとなったものです。そして永遠の大祭司でありとりなし手であられるイエス様は今も変わらないお方です。「恵によって」すなわち恵を求め信頼して、また恵の数々を思い出しながら、信仰の「心を強く」されましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





## ➤ 29日 金曜

### ヘブル



13:10 私たちには一つの祭壇があります。幕屋で仕えている者たちには、この祭壇から食べる権利がありません。

13:11 動物の血は、罪のきよめのささげ物として、大祭司によって聖所の中に持って行かれますが、からだは宿営の外で焼かれるのです。

13:12 それでイエスも、ご自分の血によって民を聖なるものとするために、門の外で苦しみを受けられました。

13:13 ですから私たちは、イエスの辱めを身に負い、宿営の外に出て、みもとに行こうではありませんか。

13:14 私たちは、いつまでも続く都をこの地上に持っているのではなく、むしろ来たるべき都を求めているのです。

13:15 それなら、私たちはイエスを通して、賛美のいけにえ、御名をたたえる唇の果実を、絶えず神にささげようではありませんか。

13:16 善を行うことと、分かち合うことを忘れてはいけません。そのようないけにえを、神は喜ばれるのです。

13:17 あなたがたの指導者たちの言うことを聞き、また服従しなさい。この人たちは神に申し開きをする者として、あなたがたのため見張りをしているのです。ですから、この人たちが喜んでそのことをし、嘆きながらすることにならないようにしなさい。そうでないと、あなたがたの益にはならないからです。

「私たち（クリスチャン）には一つの祭壇があります。」というのは、イエス様の「みもと」ということです。イエス様が永遠の大祭司であり、完全な

るささげものであるからです。さらにここで述べられていることは、贖いのささげものは他のものと違って祭司は食べることができず、宿営の外で焼かれたということです。イエス様も外で（すなわちエルサレムの城壁外のゴルゴダで）殺されました。

つまり私たちがイエス様の贖いのみもとに行こうとするなら、宿営を出て外のゴルゴダに行かなければならないということです。宿営とはヘブル人にとってはこれまでの社会であり、旧約の律法です。他の者にとっては人間社会の神なき生き方であり、因果応報的な価値観ということになるでしょう。私たちは神なき世界を出て、みもとに行く必要があるのです。

そしてイエス様のみもとから広がっているのは、永遠の希望であり、「後に来ようとしている都」です。大いなる希望のゆえに、ここにあるような「善」を行っていきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 30日 土曜

### へブル

13:18 私たちのために祈ってください。私たちは正しい良心を持っていると確信しており、何事についても正しく行動したいと思っているからです。

13:19 私があなたがたのもとに早く戻れるように、なおいっそう祈ってくださるよう、お願いします。

13:20 永遠の契約の血による羊の大牧者、私たちの主イエスを、死者の中から導き出された平和の神が、

13:21 あらゆる良いものをもって、あなたがたを整え、みこころを行わせてくださいますように。また、御前でみこころにかなうことを、イエス・キリストを通して、私たちのうちに行ってくださいますように。栄光が世々限りなくイエス・キリストにありますように。アーメン。

13:22 兄弟たちよ、あなたがたにお願いします。このような勧めのことばを耐え忍んでください。私は手短かに書いたのです。

13:23 私たちの兄弟テモテが釈放されたことを、お知らせします。もし彼が早く来れば、私は彼と一緒にあなたがたに会えるでしょう。

13:24 あなたがたのすべての指導者たち、また、すべての聖徒たちによろしく。イタリアから来た人たちが、あなたがたによろしくと言っています。

13:25 恵みがあなたがたすべてとともにありますように。

祈ってもらうことは大きな力です。著者は神の使命を全うしたいので祈ってもらいたいです。また神の力がなければ全うできないという謙遜な思いがあるからです。そしてともに主にある兄弟姉妹には



祈りの力があるという信頼があるからです。よく互いに祈りあいましょうと言いますが、祈りにはそのように色々な信仰が表れているのです。祈り合いましょう。すなわち祈りをお願いし、また積極的に祈ってあげましょう。

著者は神である主のことを、「永遠の契約の血による羊の大牧者、私たちの主イエスを死者の中から導き出された平和の神」と表現しています。神様のすばらしさをいつもイメージしながら祈り、生活することは信仰の力になります。

テモテの釈放について報告しています。それはみな喜びとなったことでしょう。主のために生き、互いに励ましあい、その苦労を分かち合うことができる人間関係ほど幸いなものはありません。それがクリスチャンの本当の交わりです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



1:1 イスラエルの王、ダビデの子ソロモンの箴言。

1:2 これは、知恵と訓戒を知り、悟りのことばを理解するため、

1:3 義とさばきと公正において、訓戒を受けて、さとくなるため、

1:4 浅はかな者を賢くし、若い者に知識と思慮を得させるためのもの。

1:5 知恵のある者は聞いて洞察を深め、分別のある者は導きを得る。

1:6 こうして、箴言と比喻、知恵のある者のことばと謎を理解する。

1:7 【主】を恐れることは知識の初め。愚か者は知恵と訓戒を蔑む。

1:8 わが子よ、父の訓戒に聞き従え。母の教えを捨ててはならない。

1:9 それらは、あなたの頭に戴く美しい花の冠、首にかけ飾りだから。

1:10 わが子よ。罪人たちがあなたを惑わしても、それに応じてはならない。

1:11 もし彼らがこう言っても。「一緒に来い。人の血を流すために待ち伏せしよう。咎なき者を、理由なしにひそかに狙い、

1:12 よみのように、彼らを生きたままで?み込もう。全き者たちを、墓に下る者のようにして。

1:13 値打ちのある物は何でも見つけ出し、奪った物でわれわれの家を満たそう。

1:14 われわれはくじで分け合い、皆で一つの金入れを持とう。」

1:15 わが子よ、彼らと一緒に道を歩いてはならない。彼らの通り道に、足を踏み入れてはならない。

1:16 彼らの足は悪に走り、人の血を流すのに速いからだ。

1:17 網を張るのは無駄なこと。すべて翼あるものの目の前では。

1:18 彼らが待ち伏せしているのは自分の血を流すため、隠れ狙っているのは自らのたましい。

1:19 不正な利得を貪る者の道はみな、このようなもの。それを得る者たちはたましいを取り去られる。

ソロモン王は神さまから何でも求めなさいと言われたときに、何よりも知恵を求めました。それは王として使命を果たすためです。私たちも神さまから各々に使命が与えられていますから、それを果たすのが幸いであることを考えると、何よりも必要な知恵が欲しいものです。何よりも知恵を求めましょう。

ただし知恵は、自分には必要がない・十分に持っているとう人には与えられません。聞いても心に留めないからです。「悟りのある者は指導を得る」とあるように、悟りのない者すなわち愚かな者ほど、指導されることを嫌うのです。

その必要な基礎は何といても、主を尊敬して従うかどうか、すなわち恐れるかどうかということです。主の権威にひれ伏して従うなら、そこから本当の知恵が与えられていきます。

また両親の訓戒を聞けるかどうかも重要で、「教えを捨ててはならない」とあります。両親との関係は、その後の人間関係に影響をしていきますから、父母からの教えに耳を傾ける傾向のある人は、他の人からも教えられやすいのです。

いずれにしても、人から教えてもらうという謙遜な姿勢を持ち続けましょう。

①神のみこころは? (信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか? (感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか? (あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

